

第7回 AAEE ベトナム-日本国際学生交流プロジェクト

VJEP, Vietnam-Japan Exchange Program 2018

(2018年8月16日～8月30日)

募集案内



VIETNAM-JAPAN EXCHANGE PROJECT

IN VIETNAM

2018/08
16-30

募集人数	10名(選考あり)
対象	大学生
お問い合わせ	hasado@aaee.jp

本プロジェクトは、アジアの学生交流を主目的としています。ベトナムと日本の両国
同人数の学生が2週間行動を共にし英語で交流を深め、共同作業に取り組みます。ベト
ナムに生涯の友を得ることができます。AAEE主催の20回目の学生交流プログラム。ベト
ナムでは6回目の開催です。

主催団体 AAEE-一般社団法人アジア教育交流研究機構



一般社団法人アジア教育交流研究機構 (AAEE)

プログラムの趣旨

本プロジェクトは、ベトナムと日本の学生の友情と交流を深めることを主目的としています。両国の学生がプロジェクト期間中1日24時間すべての時間を共有し、プロジェクトのテーマに沿った共同作業に取り組むことで絆を深め、深い友情を育むことができます。ベトナムの大学生が作り上げたプロジェクトに現地の学生と共に取り組むことで、異文化適応能力を高めることもできます。当機構主催の21回目の国際学生交流プログラム。ベトナムでは7回目の開催となる今回のテーマは「貧困と教育 (Poverty and Education)」。ベトナムの大学生とたくさん遊び、熱く語り合い、自分に磨きをかけましょう！

プログラム日程

(参加者の皆さんの都合、現地の事情や航空券の事情により開催日程を変更する場合がございますので、あらかじめご了承ください)。

8月16日 ホーチミン着

8月17日 ベトナムの学生と初対面、開会式

8月17日～19日 第一段階 チームビルディング・文化交流活動

8月20日～22日 第二段階 教育と貧困について知識を得る活動

8月23日～27日 第三段階 フィールドトリップ

(ビンフック省、貧困地域でのボランティア活動・現地の人々との交流)

8月28日～29日 第四段階 プロジェクトのまとめ

8月30日 プログラム終了

(現在、ベトナムの学生準備委員会がプログラムの詳細内容を検討中です。)

応募方法

以下のリンクを開き必要事項をご記入の上送信してください。なお、審査の段階でこちらからご連絡させていただくことがあるかもしれませんがご協力お願いいたします。

https://docs.google.com/forms/d/1cGBto_j4RJQnL7z_pNYWaxBFUHoCeBE6U7P31FtZWY/edit

応募締切

第一回 4月10日(火) 定員10名

第二回 4月20日(金) 第1回選考の残席数を定員とします。

応募資格者

- ・大学生であること（高校生は要相談）
- ・現地の学生と交流するための英語力を備えている方
- ・日本メンバー、ベトナムメンバーと友好的に活動できる方

本プログラムについて

- 1、当プログラムは学生の主体的な取組みを、専門家が支援する手法で実施されます。ベトナムでは、昨年12月に厳しい選考試験を通過した7名の学生が準備委員会を組織し、日本の学生アシスタントとも話し合いながら準備を進めています。当プログラムはホーチミン経済大学(Ho Chi Minh University of Economics)と当機構の専門家によって支えられており、プログラム全期間中、両教育機関の支援を受けます。
- 2、学生交流を主目的としたプログラムであるため、プログラムの全期間、現地の学生と共に活動します。参加される皆さんの多文化理解力や英語コミュニケーション力を高めることを意図しており、安全対策も兼ねております。
- 3、プログラム開催中、関係者が参加される学生さんを全面的にサポートしますが、事故、疾病などに関しては参加者の自己責任となりますので（選考に合格した方には誓約書をご提出いただきます）、海外旅行傷害保険への加入をよろしくお願いいたします。（選考に合格した方には誓約書をご提出いただきます）。
- 4、インターネットの環境が十分でない場所が少なくないことを予めご了承ください。
- 5、**プログラム参加費は航空券代を除き、ベトナムでの移動費、宿泊費、食事代、活動費など全て込みで139,000円**となります。プログラム終了後に費用が余った場合には返金いたします。航空券は各自での手配となりますが、参加が決定したメンバーで協力して早めに安価な航空券を手配するようにしています。ちなみに昨年、参加された学生さんの航空券代は57,220円でした。
- 6、参加費以外で想定される費用は、航空券、日本国内交通費、ベトナムでの個人的な出費となります。
- 7、**パスポートの有効期限がプログラム最終日から6カ月以上ない場合、ベトナムに入国が許可されません**ので、パスポートをすぐにご確認ください。また、プログラム開始30日前までにベトナムに滞在する場合には、本プログラムによる入国時にビザが必要となり、そのビザはベトナム国外で取得しなければなりません。その予定のある方はベトナム大使館にご相談ください。
- 8、**本プログラム参加決定者は5月12日（土）にJICA地球ひろばで開催されるイベントに参加していただきます。当イベントは、本プログラムの事前勉強会も兼ねています（遠方の方には別途ご相談します）。また本年11月か12月にJICA地球ひろばで開催する報告会イベントに参加し、発表していただきます（日程は5月に確定）。各自所定の報告書も提出していただきます。**
- 9、参加決定前に、誓約書 兼 保証人（原則として父母）に同意書を提出していただきます。
- 10、選考に合格し、参加が決定した場合参加費を所定の日にちまでにお支払いいただきます。参加者全員の振り込みを確認した後にベトナムに送金いたします。なお、ベトナムに送金後にキャンセルされた場合、参加費の返金はできませんのでご承知ください。

10、過去のプログラム参加者の主な所属校

上智大学、東京大学、青山学院大学、中央大学、明治大学、立命館アジア太平洋大学、立命館大学、専修大学、東京経済大学、近畿大学、早稲田大学、東京家政大学、筑波大学、青森公立大学、成蹊大学、新潟県立大学、立教池袋高校、啓明学園高校、本庄東高校

主なプログラム関係者

ホーチミン経済大学専任講師) Á
 (ホーチミン経済大学経済学部ディレクター) Á
 関昭典 (当機構代表理事、東京経済大学教授、プログラム同行予定)
 Yên Lâm (外国貿易大学3年、AAEE学生アシスタント、VJEP2018 実行委員長)
 Việt Hoàng (外国貿易大学3年、AAEE学生アシスタント、VJEP2018 実行副委員長)
 吉川夕葉 (上智大学総合グローバル学部3年、AAEE学生アシスタント)
 望月千里 (筑波大学社会・国際学群国際総合学類2年、AAEE学生アシスタント)
 大瀬朝楓 (上智大学総合グローバル学部1年、AAEE学生アシスタント)
 挾土沙詠 (上智大学総合グローバル学部1年、AAEE学生アシスタント)
 (ホーチミン経済大学=Vj ẽ^!•ã Á -fO&[] { &•ãP[Á@AT a @Oã。外国貿易大学=Q| !^ã } Á/ãã^Á Vj ẽ^!•ã。日本の学生アシスタントは日本での事前・事後活動をサポートします。プログラムには同行しません)

<参考資料>Á

一般社団法人アジア教育交流研究機構

(通称 A A E E . 5 g]U5 ggc WU]cb`cZ9Xi WU]cb`UbX`9I W Ub[Y)

Á

当機構はアジア地域の学生交流・教育交流を積極的に推進することを目的にGEEI年に発足しました。以下のH点を主眼に活動に取り組んでいます。Á

- ・学生・教員交流イベントなどを通じアジア地域の学生、教育者の交流を推進する。Á
- ・学生、及び教育研究者の交流を通じアジア地域における教育課題の解決のパートナーシップを築く。Á
- ・アジア地域における、(当機構の趣旨に添う)教育活動や学生交流活動を積極的に支援する。Á

なお、当機構はJICAパートナーズ認定団体であり、日本国内での主催イベントはJICAや外務省からの後援を受けています。Á

AAEEのホームページ：<http://www.aeee.or.jp/> Á

JICAパートナーズサイトでのAAEEページ：

http://www.jica.go.jp/press/2018/01/180101_01.html

Á

海外での活動

これまでに、ネパール、インド、タイ、ベトナムにおいて2008年以降ほぼ毎年開催しており、2017年までに計23回学生交流プログラムを開催して参りました。それに加えて2008年にはインドで、2011年～2015年にかけてはインドネシア、マレーシア、タイ、ラオス、カンボジア、ベトナム、インド、バングラデシュ、ネパール、フィリピンにおいて教育調査を実施してきました。また代表理事である関昭典教授は、これらの活動をもとに、ベトナム、ネパール、タイ、カンボジア、バングラデシュで開催された国際学会（2012年～2018年）において研究を発表しております。

また、副代表である加藤大介は、国際文化交流を実施する専門機関である、独立行政法人国際交流基金（Japan Foundation）の職員です。現在はジャカルタ事務所のディレクターとして日本—インドネシア交流推進の舵取りをしております。現在この地域でのプログラム開発も模索中です。

当機構の学生交流のコンセプトは、関代表理事が中心となって開発に取り組んでいる多文化間学生交流モデルに基づいており、アジア地域、とりわけ東南アジア・南アジアにおいて先駆的な取組と言えます。ベトナムやネパールのテレビやラジオなどのメディアにもたびたび取り上げられています。またMERO SATHI PROJECTと称したネパール地震復興支援緊急プロジェクト（下記に詳細あり）は、ネパール大地震後日本国内最速の支援活動として多くのメディアに取り上げていただきました。（NHKニュース「ニュースウォッチ9」関代表理事出演、NHK首都圏ニュース、東京新聞、読売新聞、毎日新聞、朝日新聞、日刊スポーツなど掲載、NHK番組「くらし 解説」内にてAAEE学生による支援の特集）

Á

AAEEの学生交流プログラム

AAEEの学生交流プログラムは、学生交流を通じて参加者の多文化理解能力、多文化間コミュニケーション能力、英語活動能力、英語学習動機づけなど、これからの国際社会を担う若者に必要な資質を高めることを目的とした教育事業です。また代表理事がすべての取り組みを詳細に観察し国際学会等で発表することにより、成果を世界各国の教育者、研究者と共有しています。Á

参加者は日本人の学生と、プログラム開催国の学生によって構成されています。開催都度各国で参加学生を募集し、代表理事もしくは開催国で活動しているAAEEスタッフによる面接を経て参加者を決定しております。また、日本国内の大学（高校）と、開催国の大学（高校）による学校間プログラム

もコーディネートしております。内容としては、日本とアジアの学生が一定期間（平均10日～2週間）寝食を共にし、様々な課題に対して協働で立ち向かいつつ交流を深めます。参加者の多文化理解能力などを高めると同時に、将来国際社会で活躍する際に共同で取り組むパートナーになれるような深い友情を構築することを主眼としております。具体的な活動内容はプログラムごとに毎回異なりますが、すべてのプログラムは参加者の希望を取り入れつつ、代表理事により理論的枠組みに沿って練られています。

- ・このこれまでの活動内容

[このこれまでの活動内容](#)

- ・2017年～2018年の主な活動

[この2017年～2018年の主な活動](#)

- ・このファンページ（英語版2017年開始フォロー人数）

[このファンページ（英語版2017年開始フォロー人数）](#)

- ・このファンページ（日本語版 日本人向けに最近始めました）

[このファンページ（日本語版 日本人向けに最近始めました）](#)

- ・プログラム参加者の報告書

[プログラム参加者の報告書](#)

。

関昭典（一般社団法人アジア教育交流研究機構代表理事、東京経済大学教授）

AAEEの代表理事である関昭典東京経済大学教授は、多文化理解や外国語教育を専門とする教育・研究者です。近年は多文化間学生交流の場面における学生の心の変化や外国語学習動機づけなどに興味を持って活動しています。二十数年前から大学の正課授業、及び財団法人の海外研修指導をこなしており、これまでにカナダ、イギリス、オーストラリア、インド、ネパール、ベトナム、タイでの計28回の国際交流プログラム指導実績があり、タイ、ネパールでの居住経験もあります。なお、以下の東京経済大学公式サイトに、関代表理事の活動理念の一端が、分かりやすく紹介されています。

[この東京経済大学公式サイトに、関代表理事の活動理念の一端が、分かりやすく紹介されています。](#)

。

JICA地球ひろば公式ブログ掲載の関代表理事の文章にもAAEEへの強い思いが込められています。Á

Á

「人生における心の支え」Á

Á

一般社団法人アジア教育交流機構Á

代表理事 関昭典Á

Á

「人生を生き抜くことってホントに大変だ・・・」最近つくづくこう思う。不安、葛藤、プレッシャー・・・それでも「心の支え」があったからこそ、弱音を吐きながらも何とかこれまでやってきた。私の場合、心が疲れて身動きが取れなくなり、じっと横たわっているときに決まって頭に思い浮かぶのが、高校一年の夏にインドネシアで過ごした経験である。Á

新潟の雪深い小さな町で育った私は、中学生時代まで外国や異文化とは無縁の生活であった。15歳まで、外国人を見たのはたった一度きり。東京にもほとんど行ったことがなく、電車で2時間離れた新潟市にすら怖くて一人で行くことも出来ない田舎者であった。Á

そんな私が高校1年の夏にいきなりインドネシアにホームステイに出かけることになったのだ。これは自分から希望したものではない。前年に、先生に言われるままに、校内暴力で荒れた中学校で過ごした経験をスピーチしたのだが、図らずも全国大会で文部大臣賞を受賞してしまいその副賞がインドネシアだったのだ。Á

外国を全く知らぬ私にとって、インドネシアと言われてもなんのことだかさっぱりわからない。友人と一緒に社会科の資料集を調べると、そこに唯一でいたのはジャングルの中にひっそりと建つジャワ島古代の「高床式住宅」。今と違いインターネットで情報検索できる時代ではない。あせった私は、3カ月間かけてジャングルで一か月生き延びる装備を準備した。友人からは方位磁石を饞別にもらい「生きて帰って来いよ！」と地元の小さな駅まで見送ってもらった。冗談みたいな本当の話である。ちなみにその日はロサンゼルスオリンピックの開会式の日であった。Á

インドネシアのジャカルタに到着しあっけにとられた。ジャカルタはジャングルではなく大都会であった。そして到着したのが夜であるにも関わらず、外にいる人々の数が半端ではない。私の住む町と比較にならぬほど栄えている。さらに、日本語のまったく聞こえない世界。空港からのバス移動中、私はあまりのカルチャーショックに空いた口が塞がらなかった。Á

ジャカルタと、世界遺産ボロブドゥール寺院で有名なジョグ・ジャカルタで約一カ月間ホームステイしたが、今思えばあまりに恥ずかしいことばかり。例えば、インドネシアにはマンディという沐浴（シャワーのようなもの）の習慣がある。家庭内に水槽があって水が張られており、手桶で体にか

けるのだ。しかし、日本式風呂以外を知らない私は素っ裸で水槽に入ってしまった。そしたら思いの他水槽が深くて溺れそうになり、大声で叫んでホストファーザーに救出された。また、ホストシスターの部屋に何気なく入ると、彼女は不思議な衣装を身にまとい不思議な動きをしていた。その姿を見て、驚きで頭が混乱し立ちすくんでしまったこともあった（当時、私はイスラム教はおろか、宗教について考えたこともなかった）。そして何よりも、伝えたいことはたくさんあるのに英語でうまく表現できず周囲の人々に迷惑をかけ何度も悔しい思いをした。Á

それでも、このホームステイ・プログラムは夢のような日々であった。特に同世代の中学生、高校生との交流は生きている限り忘れることはないだろう。フィールドトリップで滞在した無人島で、拙い英語で満点の星空の下夜な夜な夢を語り合ったこと。歌って、泳いで大騒ぎしたこと。同じ年の女の子からラブレターをもらい有頂天になりながらも、その英語の意味がわからず英語習得を彼女に固く誓ったこと（その後2年間文通は続いたが自然消滅、笑）。二度と戻ってこない彼らとのかけがえない時間。プログラムの終了が近づくに連れ、感動と辛さで涙が止まらなくなっている自分がいた。Á

帰国後、私の行動は明らかに変化した。「世界はでかいぞー」と自分自身に言い聞かせ、英語や読書など、世界とつながれる学習に猛烈に取り組むようになった。また外国の友達を作る機会を必死に求めた。大学生時代には、節約を心掛けアルバイトで金を貯め、大学生協でローンを組んでアジア、アフリカに旅に出た。「待っていても何も起こらない」ことを知ってからは、留学生との交流行事を自分で企画した。高校教員になってからも、外国とつながれる機会にはすべて挑戦した。JICAの夏季高校教員派遣プログラム（ザンビア）にも応募し合格した。Á

あの時にもし、インドネシアに行っていなければ、おそらく私の人生は全く違った方向に行っただろう。少なくとも大学教員として多文化交流や外国語教育を研究、実践したり、AAEE、アジア教育交流研究機構を立ち上げ学生交流推進に携わったりすることはまずなかったであろう。Á

人は困難に遭遇し身動きが取れなくなったとき、過去に積み重ねた感動を心の拠り所に生き抜いていけるのだと私は考えている。私は教育者として、出会った若者たちに人生を生き抜く支えになる感動を与えたいと常に考えている。ではこの私に何ができるのか。その答えがAAEE、アジア教育交流研究機構にあり、これこそが私のできる社会貢献、国際協力なのである。Á

ÁÁ

AAEEお問合せ先

望月千里（AAEE日本学生アシスタント代表、筑波大学社会・国際学群国際総合学類2年）Á

ÒË º¸¸ [&@ ~ \ º º ^ º Á

関 昭典（AAEE代表理事、東京経済大学教授）Á

ÒË º¸¸ \ º º ^ º Á